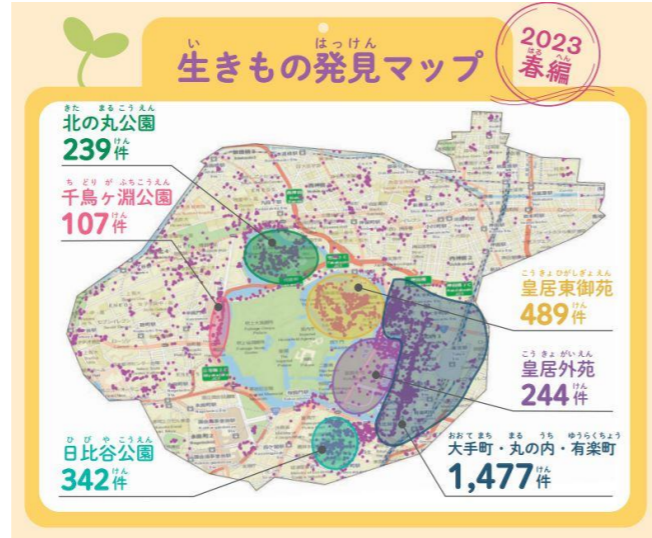


千代田区生きものさがし

千代田区内に生息・生育する生きものの現状確認と区民の生物多様性を高めることを目的として、2014（平成26）年から毎年、継続して実施しています。区民・在勤・在学・来訪者など、どなたでも参加できます。
生きものさがしの結果は、区のHPで公表されており、例年多くの情報が寄せられています。今後、これらの情報を蓄積、情報公開し、区民のみならずも取り組める生態系ネットワークの強化や希少種・外来種対策に活用していきます。



2023年春編・夏編の案内



2023年春編の結果：発見マップ

ちよだ生物多様性大賞

生物多様性に関して、優れた活動、今後の発展が期待される活動を表彰し、応援する千代田区独自の制度で、平成28年度に都内ではじめて創設されたユニークな取組みです。家庭での身近な取組みや学校、グループ、事業者などに保全活動に積極的に取り組んでもらうことが目的で、ちよだの生きものたちの魅力を改めて感じることができます。

対象となる活動	活動例
生物多様性の保全に関する活動	アダプトシステムへの参加、在来種による緑地づくり、ツバメの巣の見守り等
生きもののネットワークづくりに関する活動	鳥が休める場所づくり、生きものが住みやすい場所づくり、小さい空き地を活かした緑化等
生物多様性の普及啓発に関する活動	セミ羽化観察会への参加、生物多様性の普及グッズの制作等
上記の他、特徴ある活動	生きもの情報の蓄積や発信、生きもの調査による発見等



2022年度受賞
標本づくりや比較を行った「千代田区と東京近郊の昆虫生息調査」



2022年度受賞者の皆さんと審査員

千代田区では区民の皆さんと取り組めるアイデアの情報を発信しています。ぜひ千代田区環境政策課ホームページをご覧ください。
URL：<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/kankyo/sebutsutayose/>



「ちよだ生物多様性推進プラン」の本編（詳細版）は千代田区環境政策課のホームページでご覧いただくことができます。
URL：<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/kankyo/sebutsutayose/plan.html>



千代田区環境まちづくり部環境政策課
〒102-8688
東京都千代田区九段南1-2-1TEL：03-5211-4255
Mail：kankyouseisaku@city.chiyoda.lg.jp
URL：<https://www.city.chiyoda.lg.jp/index.html>

発行：令和6年3月

印刷製本時の環境配慮マーク

ちよだ生物多様性推進プラン

【概要版】

自然共生の先進都市をめざす
わたしたちの行動戦略

千代田区
2024年3月

千代田区のエリア別将来像

麹町・番町・飯田橋・富士見エリア

区割りの大きな街並みを活かして街なかの緑が維持・創出されることにより、外濠や靖国神社などの規模の大きな緑地との間で、多くの生きものが行き交う生きものの生息環境のネットワークが形成されています。



豊かな草地環境が残されています（外濠の緑道）



皇居～内濠エリア

江戸城築城に由来する歴史的遺構を基盤として豊かな生物多様性が引き続き守られ、多様な生きものが周辺のエリアに広がるとともに、より多くの人びとが、豊かな自然に親しむ場として利用しています。



生物豊かな内濠景観がよみがえっています

神保町・神田公園・万世橋・和泉橋エリア

行政や教育機関、企業の連携によって、エリアに点在する公園・緑地のつながりが強化され、にぎわいあふれる街並みの中にまとまりのある生きものの生息拠点が多く形成されているとともに、皇居から上野の森へと続く生態系のつながりが強化されています。上野の森までを含めた生物多様性保全に寄与しています。また、生物多様性に関する情報の発信・交流が活発に行われています。



屋上・壁面の緑化など、緑化の工夫がまち中に広がっています



緑を活かした快適な空間とにぎわいのある街がつけられています（丸の内のオープンテラス）

大手町・丸の内・有楽町・永田町エリア

各省庁の本庁舎や企業の公開空地を中心に生物多様性に配慮した緑地がつながり、皇居や日比谷公園、国会前庭、日枝神社などとの間に生きものの生息環境のネットワークが形成されているとともに、生物多様性に関する情報の発信・交流が活発に行われています。

千代田区が目指す2050年将来像と2030年目標

2050年将来像

生物多様性を基盤とした社会課題解決、持続可能なライフスタイル・社会経済活動が浸透する脱炭素社会が実現し、自然共生の先進都市となっているとともに、区をこえて広く波及している

2030年目標

千代田区に集うすべての人が生物多様性を意識した行動を選択するとともに、皇居を核とした生物多様性を基盤とする生態系のつながりが区内外に広がることで、都心環境の豊かな暮らし・活動が支えられている
=千代田区におけるネイチャーポジティブ実現の姿

わたしたちにできること

～2030年目標を達成するためにはわたしたち一人ひとりが行動をおこすことが大切です～

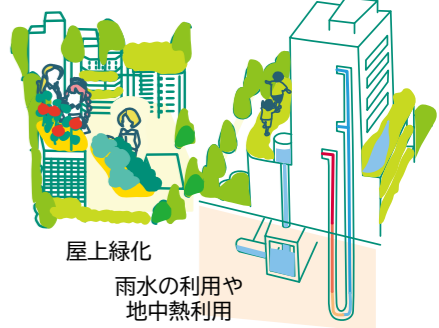
区民一人ひとり 環境に配慮したライフスタイルを選択します

在学・在勤者、観光客を含む区民の行動が区外の生物多様性にも影響を及ぼしていることを理解し、環境に配慮したライフスタイルを積極的に取り入れます。



事業者 ネイチャーポジティブを目指した事業を推進します

あらゆる事業活動（調達材料、エネルギー、人的資源、土地利用）において、生物多様性保全の視点に立った行動を選択、消費者から選ばれる企業となります。



環境保全団体 自然教育の機会を創出し人材を育成します

自然環境情報の収集・発信します。また地域の自然教育や生物多様性に関する体験学習の機会を広く提供し、主体的に行動できる次世代の人材を育成します。



大学・教育機関など 生物多様性に関する教育と普及啓発を推進します

生物多様性に関する知見を広めるとともに環境保全活動、区民への教育を積極的に推進し、地域の生物多様性向上に貢献します。



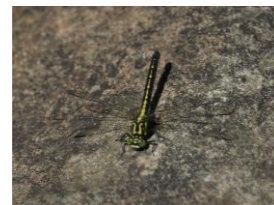
千代田区 ネイチャーポジティブに向けた行動を促進します

生きもののネットワークを念頭に置き、自然環境情報等の科学的データや企業、地域の方々の意見を聞きながら都市の生物多様性に配慮したまちづくりを協働連携のもと、推進します。

千代田区の生物多様性の現状

皇居から広がる豊かな生態系

皇居の周りに位置する内濠や外濠公園、弁慶濠、日比谷公園、靖国神社や日枝神社の樹林など多様な生きものが生息・生育する豊かな自然があります。



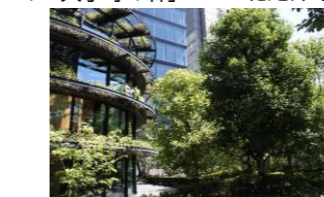
江戸時代に由来する緑地・水辺

区には武蔵野の自然を感じられる環境が残されています。吹上御苑には、東京の原風景を思わせる自然が広がり、清水谷公園や日枝神社は、区内で自然地形の上に成立した植生を今に残す限られた場所となっています。



生物多様性に配慮した企業緑地

新たな企業緑地は緑地認証の登録緑地も多く、緑地と緑地をつなぐコリドーとして役割が期待されています。



生きものの生息の場が少ない市街地環境



在来の生きものを脅かす外来生物



私たちが取組む具体的行動～主な取組み～

【戦略Ⅰ】皇居の緑を核とした生態系ネットワークの形成・強化

[2030年に達成すべき状態]

1. 区内にとどまらない生きものネットワークが多様な主体の連携により形成・強化されています。
2. 区内の生きもの、生態系の情報をあらゆる主体が協働でつくりあげ、活用されています。

◆効果的に生物多様性を保存し、新たな緑地・水辺を創出するための基礎となる情報整理と情報発信を行います。
(戦略Ⅰ-1行動計画①)

◆あらゆる主体が生態系ネットワークの強化に寄与する緑地・水辺の創出、維持管理に関わる機会を増やします。
(戦略Ⅰ-1行動計画②)

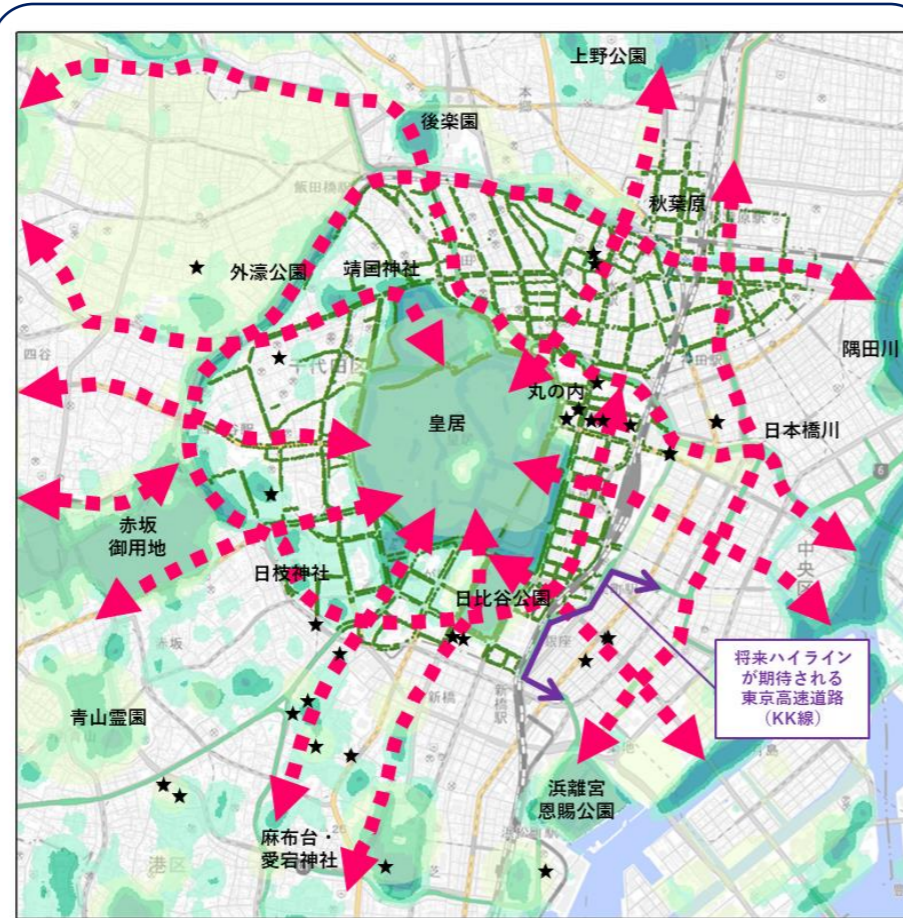


左：ホトリア（自然共生サイト・SEGES認証緑地）
右：街なかにしつらえられた緑化にチョウも飛来します（丸の内）
花壇もビオトープの一つです

◆主体間の情報共有や生物多様性保全の取組みの連携を促進します。
(戦略Ⅰ-2行動計画①)



平成28年から継続して行われている「千代田区生きものさがし」



- 周辺区の計画に示されているつなげたい緑地・既存の緑地等
- ★ 緑地認証 (ABINC認証・SEGES認証・自然共生サイト・江戸のみどり登録緑地)
- 区内の区道・都道・国道の街路樹

←---→ ちよだ生物多様性プランで示す将来の生態系ネットワークの姿・景観軸

皇居の緑を核とした生態系ネットワークの2030年の姿

皇居の豊かな生態系は都心の生物多様性を豊かにする、わたしたち区民の宝です。都市の緑の創出・再生によって皇居の豊かな自然環境を周辺地域に広げ、つなげることで、周辺地域の生物多様性も向上させることができます。さらに都市における緑地には地球温暖化への対策やヒートアイランド現象の緩和、災害対策、環境教育、観光振興、自然とのふれあいなど、多様な機能を有し、地域の価値を高めてくれるものです。

【戦略Ⅱ】自然共生社会を意識した行動の浸透

[2030年に達成すべき状態]

1. 生物多様性を守り育てる行動が次世代に引き継がれています。
2. 環境に負荷を与えない消費行動が根付いています。

◆多様な主体と連携した体験学習の充実や学校教育を通して自然と共生する心をはぐくみます。
(戦略Ⅱ-1行動計画①)



区内企業の緑地（三井住友海上駿河台ビル屋上庭園）で実施している駿河台生きものさがし自然塾

◆環境への負荷を意識した行動や事業活動を推進します。
(戦略Ⅱ-2行動計画①)

●エコロジカルフットプリントの見える化

区民が消費する製品ができるまでの過程で起こる環境負荷などを数値化し、環境負荷の少ない消費を選択する行動を促します。



●食品ロス削減の推進

確実にフードロスを減らします。また都内・国内産農林水産物・有機農業による農産物、認証マークのある農林水産物、都内・国内産木材等の積極的な利用を推進します。

【戦略Ⅲ】自然を活かした多様な社会課題の解決

[2030年に達成すべき状態]

1. 自然環境が持つ多様な機能（生態系サービス）を活かした解決策（NbS）により持続可能なまちがつけられています。
2. 千代田区の実践事例がモデルとなり他地域で広く活用されSDGsの達成に貢献しています。

◆自然の機能を活用した防災・減災・ヒートアイランド抑制に取り組みます。【レインガーデン等グリーンインフラの活用】（戦略Ⅲ-1行動計画①）



三井住友海上駿河台新館前のレインガーデン
底は土壌となっており、周囲からの雨水を浸透させています
土壌のため植物が生育します



植樹ツアーの様子

◆地方との連携による森林整備（カーボン・オフセット）事業を生物多様性に配慮した整備方法へ転換します。
(戦略Ⅲ-1行動計画③)